

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社 花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	平成28年9月11日	評価結果市町提出日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvoCd=2470400132-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、地域と共に《和気あいあい》をモットーに利用者に関わっている。毎月訪問の介護相談員から、「利用者や職員は、いつ来ても笑い声が聞こえ居心地がよい」との評価をいただいている。施設は街中にあり、幼稚園、小学校、高校も近く子供たちや生徒との交流も開設以来続いている。家族や地域の方も頻りに足を運ばれ、何でも話しやすい雰囲気心がけており、高齢者の情報をいただいている。地域社会との繋がりを大切に、利用者が明るく穏やかに暮らせる場所であり、子供から高齢者まで地域の人々たちが気軽に立ち寄れる地域のサロンの存在でありたいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の高台にあり、近くに幼稚園、小・中・高校や商店街、近隣には居室の窓越しから手の届くところに民家があり、お隣さんや小・中・高校との交流や地域の方の訪問も多く、地域の一人として地域社会とのつながりを大切にしている。又、事業所のすぐ南側の森林越しから下界の町並みがみられる等、季節の移り変わりが肌で感じられる最適の環境にある。全ての職員は介護福祉士の資格を有していて、介護の知識・技術は高く利用者本位の家庭的な雰囲気づくりに心掛け、職員は利用者との関わる時間を大切に、常に笑顔での会話と介護が実践されている。平均年齢が91歳の利用者・職員とも明るく生き生きとした表情で暮らしている。運営推進会議には毎回多数の家族が参加され多くの話し合いが行われ、家族と事業所が一体となり利用者のより良い暮らしの支援が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が家族との関係を保ちながら地域と共に<和気あいあい>と過ごせることを理念としている。管理者や職員は利用者が明るく元気にゆったりと生活できるように日々のケアに取り組んでいる。	理念と合わせ、「はい すみません おかげさまでさせていただきます ありがとうございます」の介護5心を朝礼で唱和し、利用者本位で家庭的な雰囲気と地域とのかかわりを大切に、笑顔とチームワークで、地域の中で安心して暮らせるための介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校の子供たちが施設を訪問し、歌や演奏を聞かせてくれたり、一緒にゲームを楽しんだりの交流が続いている。	地域の中での活動を最も大切にし、地位のイベント(亀山市、地域の地蔵盆、利用者も出展する作品展等)に参加。又、事業所に小学生の慰問、中学生の福祉体験、高校生の介護実習の受入れ、地域の防災訓練に参加する等地域の一員として多くの活動をし、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学生の福祉体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と一緒に行事に参加してもらい、楽しい時間を過ごしていただいている。包括支援センター、民生委員、自治会長からの情報やアドバイスをいただいたり、家族の要望なども聞きサービスの向上に役立っている。	会議は隔月に開催し、地域包括支援センター、民生児童委員の他、家族が毎回3名~7名、利用者が3名~6名参加し、全ての参加者から活発な意見や助言、情報交換が行われ、出された意見や助言、情報は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続きや、運営推進会議録の提出など定期的に包括支援センターに出向いている。また入居の相談に市の担当者が訪れることもあり、情報交換ができるように心がけている。	日常的な相談事や情報交換は、主に地域包括支援センターとしている。市が主催の研修会や会議には積極的に参加し情報交換等に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に拘束をしないケアを話し合い玄関も日中は鍵をかけない。また車いすに長時間座ったままにならないよう、アクティビティを工夫している。	全職員が介護福祉士の有資格者であり、身体拘束についての理解がされており、言葉による拘束、精神的・生理的な抑制をしない介護に取り組み、玄関は施錠なし、又、夜間にベッドからの転倒で事故のないように、ベッドの柵をせずベッドを低くする工夫を試行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待に関する資料を用い話しあったりしている。身体的にはもちろんのこと言葉の暴力についても職員同士で注意しあい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少ない時間ではあるが、利用者が住み慣れた場所で安心して暮らせるようにとの思いで、又一人ひとりの状態に合わせた、適切なケアをおこなうことが大切だと話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人や家族と何度も話し合う機会をもち、見学時には利用者や職員と話ししてもらい安心して入居できるよう努めている。また疑問点は納得のいくように十分説明し契約や解約をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に話題を投げかけ意見や要望を引き出しやすいようにし気軽に話し合えるように心がけている。毎月訪問の介護相談員とも利用者は顔なじみで何でも話し合い、要望などがあればできる限り日々のケアに反映させている。	利用者とは日々の会話の中で、家族とは隔月に花しょうぶ通信で暮らしの様子をお知らせし、面会時と運営推進会議で意見を聞いている。事業所では運動会行事を見合わせる予定であったが、家族の意見で運動会の開催を継続する等多くの意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中でも意見が引き出しやすいように心がけている。出された意見や要望はできる限り反映させて職員の働く意欲やケアの質の向上に繋がるようにしている。	管理者・職員間のコミュニケーションは良く、管理者は常に介護の場において、いつでも自由に意見や要望、アイデアを聞き入れ介護の質の向上等に活かしている。又、副施設長は年2回個別面談し、意見や要望が話し合える機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績を反映させると共に年1回の給与水準の見直し等にも反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修等には可能な限り交代で参加するようにしており、費用面では援助もしている。研修後はレポート提出会議で報告しフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	亀山市地域密着型サービス施設連絡会主催の勉強会に参加しサービスの質の向上がはかれるように近隣のグループホーム等と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用からグループホームに入居される方もあり顔馴染みで思いを伝えてもらいやすい雰囲気作りを心掛けている。又、家族と共に施設を訪問してもらい安心して利用が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から在宅時の様子を聞き本人や家族の思い、求めていることを踏まえてこれからの暮らしケアについて良く話し合い家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、困っている事等には全職員で対応策を考え可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は自分達の家族という思いの中で接している。共に泣いたり笑ったりまた利用者に教えてもらうことも時にはねぎらいの言葉をかけてもらったりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には利用者の日頃の様子を詳しく伝え家族と共に喜んだり、おどろかれたりされる。外出時には本人家族が安心して過せるようにケアの方法を説明し家の様子も詳しく聞いてケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のまつりや行事、買い物にでかけ知人に会い声を掛けられることもある。また家に帰り家族と共に過ごしたり親戚の家を訪ねてもらったりしている。	利用者も高齢となり、以前の馴染みの関係を継続することは難しくなっているが、家族や親戚は何時でも自由に面会出来る様に心掛けている。亀山大市での知人との出会い、行き付けの美容院・床屋、法事・墓参り等多くの馴染みが継続出来るように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特性や能力を活かし、生活の中で役割分担ができています。利用者どうしが助け合ったりの場面もあり職員は付かず離れずの立場でそっと見守りそれとなく話しの輪に入ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所後も病院や施設を訪問している。また家族にも近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話などの中から各々の希望や思いを把握している。表出困難な場合は家族から情報を得たり日々の生活の中で表情などから読み取るなどし、心地よく過せるように努めている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、日々生活の中で職員と一対一になる夜間の居室でさりげなく聞き出している。又、日々の体調や表情、行動から思いや意向を把握し、ミーティングノートに記録し、全職員が見て確認印を押すことで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから今迄の生活の様子などを聞いているが日常の生活の中で家族も知らないことにはなされることもあり家族もびっくりされることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の生活リズムを把握して個々の状態に応じた過ごし方してしてもらっている。日によって状態が変化することもあるので注意深く見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや表情、家族の希望、日々の介護をもとに職員全員で意見交換を行い介護計画を作成している。また日々のケアの実態からモニタリングを行い計画の確認と必要に応じて見直しを行っている。	面会時等に家族の意見を聞き、毎月の職員会議(グループ会議)で計画に対する実践状況を意見交換した内容を3ヶ月毎に評価(モニタリング)し、定期的な見直しのルールは定めていないが、モニタリングを基に必要な都度計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、各種チェック表に日々の様子や本人の言葉などを記録し職員間で情報の共有を行い、利用者が穏やかに日々の生活が送れるように話し合いながら計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じて受診の付き添いや買い物などその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域の方から情報を頂いたり亀山大市や協働センターでの催し物に出かけている出かけた先は地域との交流の場にもなり、地域と関わりながら豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は利用者も親しみ信頼しており月2回の往診以外にも随時の往診や総合病院の紹介を受けられるようになっている。また緊急時も24時間指示の受けられるようになっている。	以前は従来のかかりつけ医で受診する事もあったが、現状は家族の希望で専門医以外は、全ての利用者は協力医療機関がかかりつけ医となっている。月2回の往診、緊急時を含め24時間電話等での対応が可能であり、安心して適切な医療支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスに看護師がおり協力医からアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が何度も見舞い主治医や家族病院関係者などと治療経過や退院後の事を話し合い出来るだけ早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応方針を定め利用開始時から事業所でできることなどを本人や家族に説明している。状態の変化があるごとに家族や協力医と話し合いながら可能な限り希望に添った支援が出来るように職員も事業所内外の看取り研修を受けて備えている。	家族に『私(利用者)の終末期について希望する』のアンケート実施し、多くの家族は事業所での看取り支援を希望されていることから、重度化の状態になれば再度家族と話し合い、医師の協力の下、看取り支援をする方針である。職員も同じ思いでありターミナルケアの研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスに看護職員や応急手当の研修を受けた職員から教わり急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所にも声をかけ、夜間を想定した避難訓練をおこなっている。地震を感じた時や報道を聞きその都度避難できるよう役割分担も確認している。	火災の予防としては、ハード面ではスプリンクラーの設置、厨房はIH使用となっている。防災訓練としては消防署の指導の下、近所に声掛けし、併設のデイとの合同訓練と合せ年2回主に火災時の避難訓練を実施している。地震に対する避難訓練は課題となっている。	近い将来大規模地震の発生が予測されていることから、特に地震災害時の備えとして、日々職員個々の役割を明確にし、災害時の初期動作が敏速に出来るよう、必要な備品、定期的な訓練(机上含む)を実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、また親や身内と思いを接している。排泄誘導や入浴時の言葉かけなどは特に注意し利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	利用者一人ひとりの生活歴や性格、日々の言動、表情に合わせ、利用者の話は否定せず笑顔で受け止めている。排泄時や入浴時には必ずカーテンを閉めて介助するよう心掛けている。また、利用者の尊厳を害しない言葉遣い、言葉かけにならないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話のなかから献立や行事を考えたりしている。意思表示が苦手な方は例を挙げて決める事ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで利用者や職員と話をしたり居室で休んでいただいたり、その日の体調や希望に応じ各々のペースで過してもらっている本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設時から来てもらっている地域の孫のような床屋さんに好きな髪形にもらっている。季節にそぐわない服を着ている方には職員が寄り添い相談にのっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望をも取り入れた献立で3食とも職員が作り、できる範囲で後片付け、野菜の準備など手伝ってもらっている、おせち料理、花見弁当など季節を感じ楽しんで食べられる工夫をしている。	三食とも、利用者の好みも取り入れ職員が交代で献立から食材の調達、調理までの作業をし、手作りの美味しい料理が提供されている。職員も食事介助しながら同じテーブルでの楽しい食事となっている。又、天気の良い日には時々玄関先の駐車場でオープンカフェとランチタイムを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や食事量、水分量を把握し栄養やバランスを考え多種類の食材を使用するよう心がけている。見た目でも美味しく感じ楽しんで食事できるように盛り付けも工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをし磨き方や不十分な方には職員が介助さっぱりしてもらっている。義歯は洗って朝まで洗浄液に浸け置き口腔内の清潔が保たれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情から尿便意を察知しその人に合った言葉をかけてトイレに誘導している。夜間オムツ対応の方も昼間はハビリパンツでできる限りトイレで自立にむけた排泄ができるよう支援している。	全ての利用者が一部介助、全介助が必要な状態にある。食事前・寝る前の排尿が習慣となり、見守りと一部介助でトイレでの自立排泄を支援している。全介助が必要な利用者でトイレでの排泄が困難な方には排泄パターンや表情等からオムツ交換し清拭する支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう朝の体操は毎日欠かさず行い繊維質の多い食材は圧力鍋を使い食べやすくしている。また水分や乳製品などの摂取や食事量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後に入浴時間を設けており希望の日時に入浴してもらっている。入浴剤やしょうぶ、ゆずで季節の風呂を楽しんだりしてゆくり入浴できるようにしている。	浴槽は個浴槽で、毎日午後の2時頃から、週3回～4回利用者の希望する曜日・時間帯で入浴している。重度の利用者は併設のデイの機械浴を借りての入浴支援となっている。秋には家族が差し入れてくれた柚子を使い、柚子湯等で季節が感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後とその人の体調に合わせて居室にて休んでもらっている。夜間はその人に応じた薬剤の使用で気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明は個別ファイルにとじ常時みられるようにしている。症状の変化や薬の変更は申し送りノートで確実に伝わるようにしている。薬は手渡し、服薬後は空袋をもらい確実に服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の様子や生活歴などから、家事の手伝や書き物、手芸などの得意分野で各々が活躍できる場をつくっている。役割を担う事で生き生きと意欲向上にもなり家族の喜びにもつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に出かけたり、弁当持って季節の花見外気浴兼ねたオープンカフェと外で食べる食事は気分転換にもなっている。	天気が良ければ散歩を兼ねて商店街の散策、温かい時期には外気浴を兼ね玄関先でのオープンカフェと食事会、菜園の野菜の水やり、普段なかなか行けない少し遠めのドライブを兼ねてスーパーでの買い物、弁当持参の花見(コスモス、花しょうぶ、紫陽花等)、地域の祭りに参加する等多くの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	恒例の亀山大市や地藏盆などで小額のお金を持ってもらい好きな物を買われる方があり、職員はそつと付き添い見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自分の思いを家族などに上手く伝えられるよう付き添い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央にある天窓から自然な光が差し込むフロアで利用者に過してもらっている。書道作品や写真みんなで制作した四季の張り絵を壁に貼り季節の感じられるようにしている。台所からは料理している匂いがし、ゆっくりくつろげる雰囲気心がけている。	開設後13年目の事業所であるが、共有空間全て掃除が行届き整理整頓されている。特に厨房と対面式の居間は大変広く開放的で、天窓からの採光と間接照明で居心地が良い。共用空間の随所に季節の花や壁面には利用者の作品、行事毎の写真が飾られ生活感、季節感が感じられる居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所で過ごすことが多いが好きな時に好きな人と過せるようにフロアの片隅にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過してもらえるように使い慣れたものを持ちこんだり、家族と撮った写真や自作の作品を壁に貼っている。家族との写真を見る事で家族とのつながりが感じられるように工夫している。	各居室ともお好みの家電や衣類、小物が多く持ち込まれきれいに整理整頓されている。壁面や筆筒の上には大好きで自慢の子供や孫の写真が多く飾り付けされる等、利用者個々が居心地良く過せる部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室の入り口には表札をかけている。居室やフロアで不安に感じられる物はないか職員と話し合い落ち着いて過せるよう工夫している。		